

## 4-5 伊豆半島におけるラドン観測 (VI) Radon Observations in the Izu Peninsula (VI)

東京大学 理学部  
Faculty of Science, The University of Tokyo

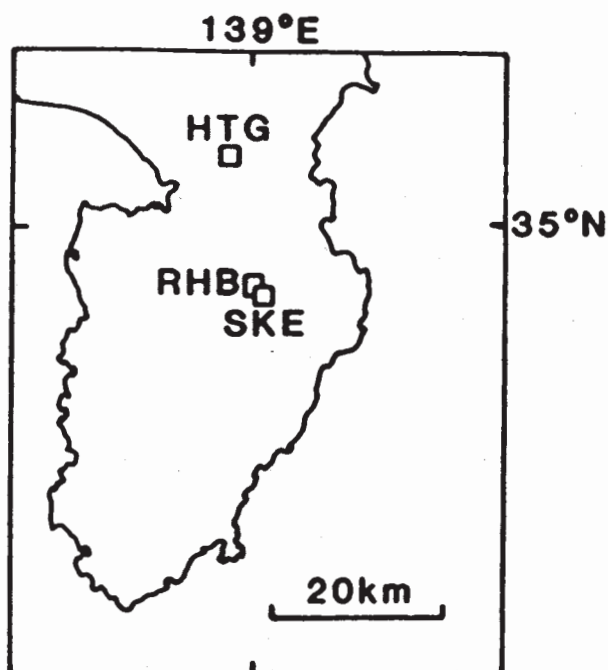
前報<sup>1)</sup>にひきつづき伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1986年11月—1987年11月)を報告する。

観測点は第1図に示す函南(HTG), 中伊豆(RHB), 中伊豆(SKE)の3点である。第2図は各地点における連続観測の記録で, 1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を, この期間内の平均値に対する相対値で示したものである。

HTGでのラドン濃度の平均値は前回報告した値とよく一致する。また不規則な短周期の変動が冬期に大きく, 夏期に小さい傾向にある。RHBではラドン濃度の平均値が僅かに減少した。一方SKEのラドン濃度の平均値は1986年の平均値と誤差の範囲で一致した。長い周期の変動(年周変動)が小さいというこの地球の特徴は今回も引き続いて見られる。

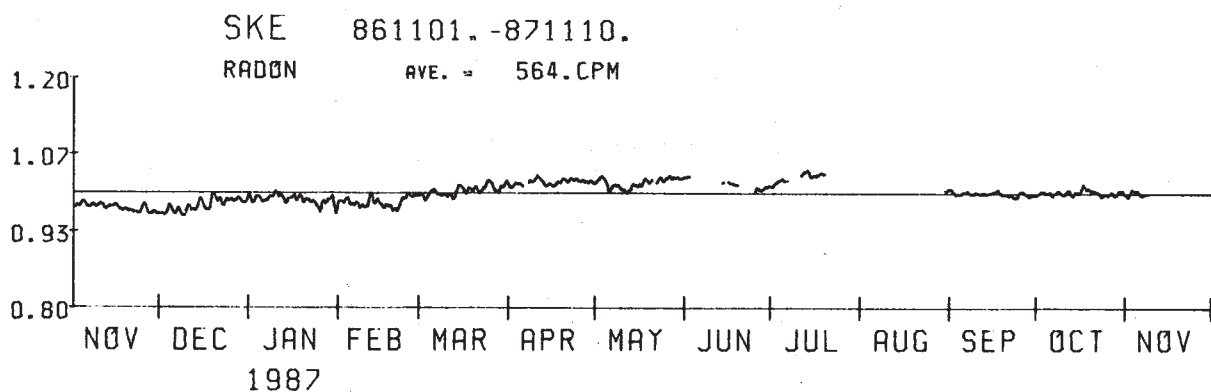
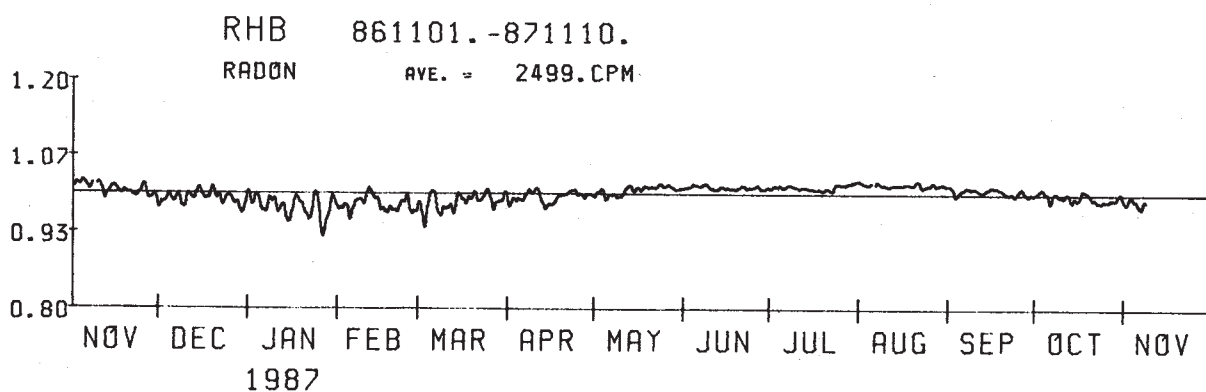
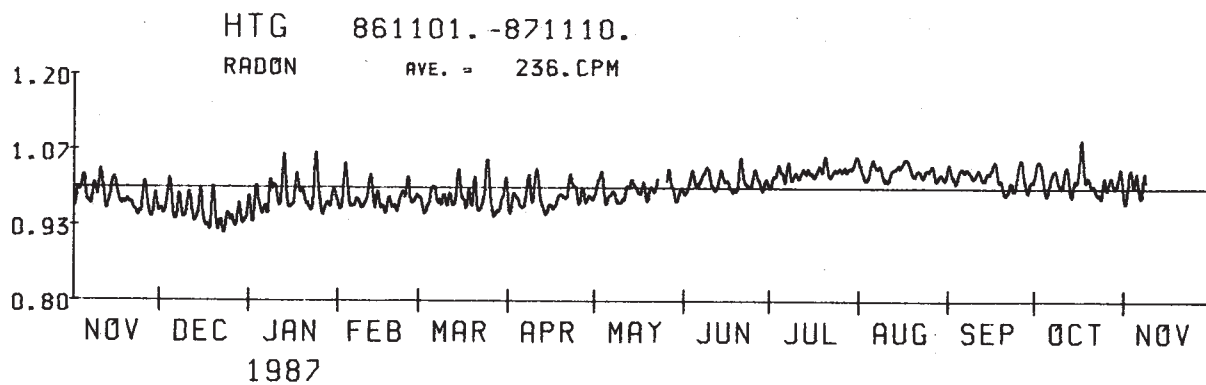
### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部: 伊豆半島におけるラドン観測(V), 連絡会報, 37(1987), 259-260.



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula (HTG: Kannami, RHB: Nakaizu, SKE: Nakaizu).



第2図 HTG (函南), RHB (中伊豆), SKE (中伊豆) における地下水中  
のラドン濃度の変化 (1986年11月~1987年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration of groundwater at HTG (Kannami), RHB (Nakaizu) and SKE (Nakaizu). (November, 1986 - November 1987).